

鷹取山自然観察会会報

2025. 9. 14

No. 49

鳥類調査の報告 – 2024～25年調査 –

はじめに

当会では2014年から鳥類調査を開始し、比較的観察しやすい越冬期(12月～3月)から繁殖期(5、6月)まで調査を行っています。これまでの結果は毎年9月の会報で報告してきましたが、今回2024～25年の結果を報告します。この調査の目的は、この地域に生息する鳥類の種類と数を調べ、記録するためのものです。継続して調べることで環境の変化など経年的な変化がわかってくると思います。

1. 鳥類の生息について

鳥類には、年間を通して同じ場所に生息し、繁殖行動も見られるものを留鳥といいます。留鳥はシジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、コゲラ、スズメ、キジバト、カラス類などです。

一方、暑さ、寒さを避けるため、夏は山地、冬は平地、と言うように繁殖地と越冬地を区別して日本国内を季節移動する鳥を漂鳥といいます。おもな漂鳥は、ムクドリ、ヒヨドリ、アオジ、ホオジロなどです。

また、通過鳥(渡り鳥)として夏鳥、冬鳥と呼ばれます。夏鳥としては、ツバメ、キビタキ、ホトトギスのように春に日本に来て繁殖し、繁殖が終わると南方に帰っていく鳥類をいいます。代表的な冬鳥としてはジョウビタキ、シロハラ、ツグミなど日本より北の地方で繁殖し、冬に日本に渡来する鳥をいいます。

野鳥の生息環境は種によって違いがあり、山林、草原、田畑、水辺などですみ分けを行っています。鷹取山でよく見られるシジュウカラ、ヤマガラ、コゲラなどは山林を好み、ホオジロ、ツグミなどは草原を好むようです。

三浦半島は三方を海に囲まれ、中央部に標高200m程度の低山が連なり、照葉樹林や落葉樹が茂る緑多い地域です。鷹取山には、水場は殆どなく水辺に棲む鳥類はあまり見られません。草原や山林に生息する鳥類が中心です。

2. 調査ルート及び調査頻度

調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」

により、植生の違う4区間に分け調査しました。調査ルートは会報33号を参照してください。2014年から開始した調査ですが、2018年に調査期間及び時間、調査区間を短縮し、変更しました。また調査頻度などは調査マニュアルに従い、越冬期、繁殖期の2区分として行っています。

① 越冬期:2024年12月～2025年3月の間 第1、3金曜日の8日間。

② 繁殖期:2025年5月、6月の3日間。



調査時間は越冬期9時30分開始、昨年まで繁殖期は6時30分開始でしたが、調査員が集まらず越冬期と同様としました。調査ルートを1往復し、目撃、鳴き声(地鳴き、さえずり)で種を判別し記録しました。

3. 調査結果

ここでは、2024-25年まで年別の調査結果を表1に示します。2024-25年は全期間を通して28種を記録しました。また、2014年から現在まで、記録できたものは累積で46種となっています。

2024-25年の調査期間を通して数が多い鳥は、ヒヨドリ、メジロ、ハシブトガラス、スズメ、ウグイス、シジュウカラ、アオジ、ドバト、トビ、ガビチョウの順であり、これらはアオジを除き留鳥です。この順位は、毎年ほぼ同じ傾向を示しています。今年は、調査期間中に

表1 年別の調査結果

	科 名	種 名	15-16年	16-17年	17-18年	18-19年	19-20年	20-21年	21-22年	22-23年	23-24年	24-25年
1	キジ目キジ科	コジュケイ	8(4/6)	10(6/10)	24(7/11)	18(7/11)	10(6/11)	10(6/10)	5(4/11)	13(8/11)	10(5/11)	15(9/11)
2	キツキ目	アオガラ	1(1/6)	2(2/10)	3(2/11)	8(3/11)	0	0	1(1/11)	1(1/11)	0	1(1/11)
3		アカガラ?	1(1/6)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4		コガラ	15(6/6)	21(8/10)	38(10/11)	43(8/11)	34(9/11)	28(9/10)	14(9/11)	10(7/11)	11(7/11)	15(8/11)
5		アカウン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	スズメ目アトリ科	ウン	2(1/6)	28(4/10)	12(3/11)	0	4(1/11)	1(1/10)	0	0	3(1/11)	0
7		シメ	0	5(2/10)	4(3/11)	4(2/11)	1(1/11)	0	0	0	1(1/11)	0
8		カワラヒワ	0	5(3/10)	2(1/11)	5(2/11)	0	2(1/10)	0	6(1/11)	0	0
9		ウグイス	29(5/6)	31(9/10)	61(9/11)	89(9/11)	84(9/11)	76(9/10)	56(10/11)	59(11/11)	52(9/11)	42(8/11)
10	エナガ科	エナガ	14(3/6)	11(4/10)	32(6/11)	21(3/11)	16(3/11)	28(7/10)	11(3/11)	7(3/11)	26(3/11)	21(4/11)
		カラス類	0	0	0	0	8(4/11)	9(4/10)	0	6(2/11)	2(2/11)	0
11		ハシブトガラス	10(5/6)	34(8/10)	58(10/11)	42(9/11)	26(8/11)	33(9/10)	62(11/11)	47(11/11)	77(11/11)	57(11/11)
12		ハシボンガラス	8(2/6)	5(2/10)	11(2/11)	4(3/11)	16(2/11)	5(3/10)	17(6/11)	14(6/11)	25(6/11)	16(6/11)
13	シジュウカラ科	シジュウカラ	18(6/6)	25(7/10)	68(11/11)	65(9/11)	90(9/11)	62(10/10)	40(10/11)	75(11/11)	86(11/11)	41(9/11)
14		ヤマガラ	4(1/6)	8(3/10)	8(3/11)	17(6/11)	9(4/11)	6(5/10)	5(5/11)	7(3/11)	3(8/11)	16(8/11)
15		スズメ	34(6/6)	87(10/10)	39(8/11)	113(9/11)	58(7/11)	46(8/10)	64(8/11)	64(6/11)	66(7/11)	44(4/11)
16		ハクセキレイ	4(2/6)	6(4/10)	12(6/11)	1(1/11)	0	1(1/10)	2(2/11)	3(3/11)	2(1/11)	3(2/11)
17	セキレイ科	キセキレイ	0	0	1(1/11)	1(1/11)	0	0	0	0	0	0
18		ツバメ	1(1/6)	6(2/10)	19(3/11)	5(2/11)	17(3/11)	6(2/10)	24(2/11)	16(2/11)	46(3/11)	19(3/11)
19		イワツバメ	0	3(1/10)	0	0	0	0	0	0	0	0
20		ヒヨドリ	66(6/6)	74(10/10)	162(10/11)	113(8/11)	160(11/11)	122(9/10)	127(11/11)	158(11/11)	128(11/11)	176(9/11)
21	ホオジロ科	アオジ	2(2/6)	17(5/10)	31(7/11)	69(8/11)	34(8/11)	26(6/10)	30(9/11)	34(8/11)	42(7/11)	35(5/11)
22		ホオジロ	1(1/6)	15(7/10)	9(6/11)	6(4/11)	9(3/11)	12(5/10)	22(6/11)	19(7/11)	26(9/11)	10(7/11)
23		ムクドリ	0	22(5/10)	43(3/11)	11(2/11)	3(2/11)	6(2/10)	5(4/11)	1(1/11)	8(2/11)	8(3/11)
24		メジロ	42(5/6)	31(8/10)	169(11/11)	88(7/11)	103(10/11)	117(10/10)	83(6/11)	165(11/11)	107(11/11)	145(11/11)
25	チメドリ科	ガビチョウ	7(3/6)	6(4/10)	16(6/11)	30(5/11)	28(4/11)	25(6/10)	21(6/11)	32(5/11)	29(8/11)	23(6/11)
		大型ツグミ類	2(2/6)	1(1/10)	0	0	0	0	0	0	0	0
26		アカハラ	2(2/6)	0	0	0	0	0	0	0	0	1(1/11)
27		インビヨドリ	1(1/6)	0	1(1/11)	0	1(1/11)	1(1/10)	1(1/11)	7(4/11)	2(2/11)	5(3/11)
28	ツグミ科	シロハラ	0	2(2/10)	3(3/11)	1(1/11)	1(1/11)	0	1(3/11)	1(1/11)	2(2/11)	2(2/11)
29		ツグミ	0	4(2/10)	7(3/11)	0	0	0	0	0	0	0
30		トラツグミ	0	0	1(1/11)	0	0	0	0	0	0	1(1/11)
31		キビタキ	1(1/6)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヒタキ科	ヒタキ科	0	0	0	0	0	1(1/10)	0	0	0	0

	科 名	種 名	15-16年	16-17年	17-18年	18-19年	19-20年	20-21年	21-22年	22-23年	23-24年	24-25年
32	ヒタギ科	シヨフヒタギ	1(1/6)	3(2/10)	6(4/11)	2(2/11)	16(5/11)	4(3/10)	11(6/11)	1(1/11)	4(3/11)	6(4/11)
33		モズ	3(2/6)	0	4(4/11)	2(1/11)	0	1(1/10)	2(2/11)	1(1/11)	5(3/11)	0
34	モズ科	ヒレンジャク	0	0	1(1/11)	0	20(1/11)	5(1/10)		28(1/11)	0	0
35		キレンジャク	0	0	0	0	0	8(1/10)			0	0
36		オオタカ	1(1/6)	0	0	0	0	2(2/10)		2(2/11)	0	0
37	タカ目タカ科	トビ	8(4/6)	29(10/10)	29(10/11)	21(8/11)	27(8/11)	12(6/10)	26(8/11)	18(8/11)	24(7/11)	25(10/11)
38		ノスリ	1(1/6)	3(2/10)	1(1/11)	3(3/11)	0	0	0	0	0	2(1/11)
39	ハト目ハト科	キジハト	4(3/6)	10(6/10)	9(3/11)	6(4/11)	2(1/11)	6(4/10)	15(8/11)	5(4/11)	5(3/11)	4(3/11)
40		ドバト	2(2/6)	7(1/10)	9(3/11)	0	17(4/11)	53(4/10)	8(3/11)	40(2/11)	50(5/11)	27(3/11)
42	ハヤブサ目ハヤブサ科	チョウゲンボウ	0	0	1(1/11)	0	0	0	0	0	0	0
43		ハヤブサ	0	0	1(1/11)	0	0	0	0	0	0	0
44	カッコー目カッコー科	ホトトギス	0	0	1(1/11)	0	0	8(2/10)	0	6(3/11)	2(1/11)	0
	サギ科	サギの仲間	0	0	0	0	0	0	0	0	1(1/11)	0
45	スズメ目サンショウクイ科	リュウキュウサンショウクイ	0	0	0	0	0	0	0	0	1(1/11)	5(2/11)
46	スズメ目ムシクイ科	センダイムシクイ	0	0	0	0	0	0	0	0	1(1/11)	0
		個体数(羽)	289	512	896	792	794	722	656	846	851	765
		種数	30	30	36	27	26	29	28	30	30	28

トラツグミ、アカハラが久しぶりに観察できました。モズ、ホトトギス、アトリ科のウソ、シメは記録できなかった。草原で普通に見られるツグミは2018年頃から記録していません。

一方、イソヒヨドリ、ガビチョウ、ホオジロは増加傾向にあります。ホオジロは最近さえずりを聞くことが多くなりました。昨年記録したリュウキュウサンショウクイは今年も記録できました。

ここでの記録は調査期間中の結果であり、記録されない鳥類も多くあると思います。また、これまでも見逃した鳥類もあると思います。これからも調査を継続することでこの地域の生息環境の変化など環境が理解できると考えています。

2024-25年調査に参加した人(鷹取山自然観察会会員)

本多久男、北村一男、中村紀雄、伊沢昭司、金子龍次、菅沼桂子、弦間幸子、星野節子、高橋和子、大澤美恵子、板垣加代子

(順不同、敬称略)

お知らせ

6月に鷹取山公園の水道配水池の近くで落石が発生しました。横須賀市では安全確保のため摩崖仏～水道配水池までを通行止めとしております。復旧作業および安全確認が完了するまで、通行止めとして、再開時期は未定とのことです。

当会では自然観察会、モニタリングサイト1000里地調査の観察コースになっていますが、復旧するまで迂回して行くことにします。

また、2020年以降、当会では摩崖仏の裏側など3か所でかながわトラスト財団の助成金によりコナラ、クヌギなど植樹しています。苗木の育成のため定期的に草刈など維持管理をしたり、貴重植物の保護活動をしています。通行止め区間内での草刈などの作業について横須賀市の了解を頂きました。



セミの抜け殻調査について

—2025年調査報告—

セミは夏の風物詩で、鷹取山周辺では例年、7月上旬からニイニゼミ、梅雨明け頃にはアブラゼミ、ミンミンゼミの鳴き声が響き、ツクツクボウシは秋まで鳴き続けます。朝夕はヒグラシの声も聞かれます。セミは夏に交尾し、雌は枯れ木に卵を産みます。休眠越冬した卵から梅雨時に孵った幼虫は地中に潜り、脱皮を繰り返し大きくなっていきます。セミは1～5年ほど地中で過ごし、終令の幼虫は生息場所からあまり移動せずに夜間に地上に出て羽化し、成虫となります。成虫は1週間から1か月程生き、雄は交尾の相手を見つけるために大きな声で鳴きます。2025年も、鷹取山周辺で10年目となるセミの抜け殻調査を行いました。

1. 調査方法

7月23、25日と8月22日の2回、鷹取山の観察路を鷹取山公園から田浦に向かって歩きながら木や草に付いている抜け殻を採取して調べました。種の同定は会報13号(7頁)の方法により確認しました。

2. 調査結果

調査結果は、表1に今年度の結果、図1に2016年～2025年の結果を示しました。7月下旬の調査では、ニイニゼミが97%と多く、アブラゼミ、ミンミンゼミは少なかった。ニイニゼミは比較的低い場所で羽化しており、テイカカズラの葉やアカガシの幹で多く見つっています。今年はアブラゼミ、ミンミンゼミなど鳴き声も遅く、羽化の時期が遅かったようです。

8月下旬の調査では、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、ニイニゼミの順で抜け殻が見つかりました。今回の調査ではヒグラシ、クマゼミの抜け殻は見つかりませんでした。身近でもヒグラシは鳴き声が聞こえていないので、羽化の時期が遅いのかもかもしれません。

2回の調査を合わせた内訳は、ニイニゼミが68.9%、アブラゼミが10.1%、ミンミンゼミが14.2%、ツクツクボウシが6.8%、また、抜け殻を採取することはできませんでしたが、今年は鷹取山の山中でも、クマゼミが鳴いているのが良く聞こえました。

セミの抜け殻についてニイニゼミを除き、雌雄も確認しています。年間では雄が42.9%、雌は57.1%でした。

図1の10年間の調査結果を見ると、鷹取山のセミは、7月はニイニゼミ、8月はアブラゼミとミンミンゼミが優占種となっていることがわかります。経年的にみると2020年7月は特に抜け殻が少なく、この年は梅雨明けが8月1日と遅く、夏に降水量が多かったためセミの発生が遅くなったと思われます。

セミの幼虫は複数年を地中で過ごすため、羽化の状況を把握する抜け殻調査には、複数年にわたる気候の変動などの環境変化が反映されることになります。そのため、毎年の調査を積み重ねていくことが必要になり



写真1 7月の調査ではニイニゼミが多い



写真2、3 テイカカズラの抜け殻とニイニゼミの成虫



写真4 8月の調査ではアブラゼミ、ミンミンゼミが多く、次いでツクツクボウシ。右側はツクツクボウシ

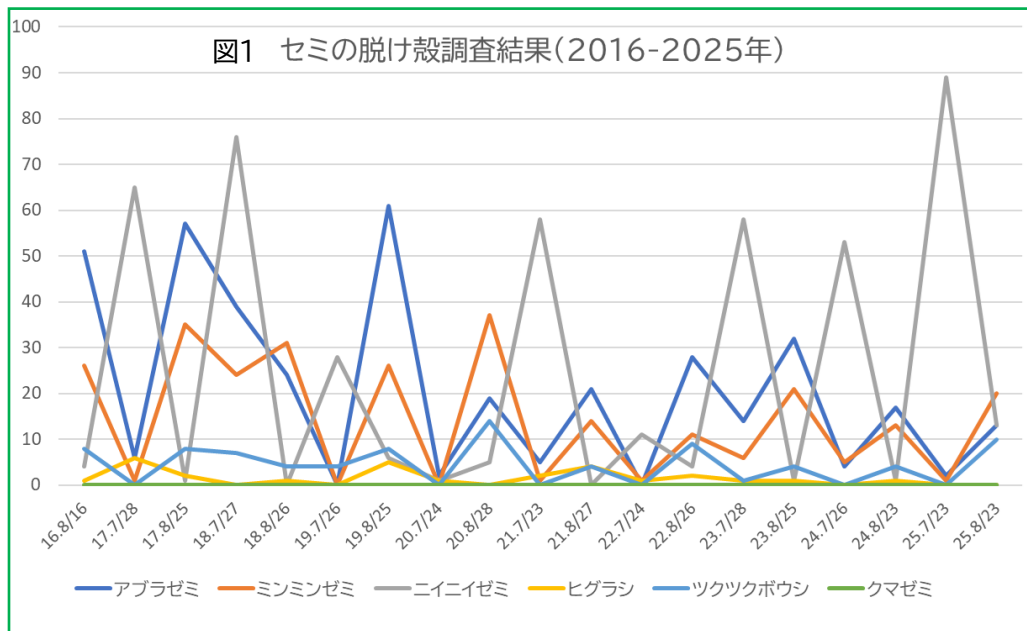
ます。

3. その他

全国的には「セミの抜け殻しらべ市民ネット」や日本自然保護協会などで調査が行われています。セミは幼虫期間が複数年にわたるので、鷹取山でも継続的に調査ができれば、セミの変化がわかると思います。クマゼミは、鷹取山及びその周辺でも頻繁に鳴き声が聞こえるようになりました。大阪の都市部のように、クマゼミが増えてアブラゼミが少なくなるという現象も気にかかります。翌年以降も調査を継続していくことが大切です。

表1 セミの抜け殻の調査結果

種類	2025年7月23、25日						2025年8月22日						合 計					
調査区間	A	D	E	F	G	計(%)	A	D	E	F	G	計(%)	A	D	E	F	G	計(%)
アブラゼミ	0	0	1	0	1	2.2	1	6	1	0	5	23.2	1	6	2	0	6	10.1
ミンミンゼミ	0	0	1	0	0	1.1	5	10	2	0	3	35.7	5	10	3	0	3	14.2
ニイニイゼミ	0	23	17	14	35	96.7	0	0	3	4	6	23.2	0	23	20	18	41	68.9
ヒグラシ	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0
ツクツクボウシ	0	0	0	0	0	0.0	0	2	7	0	1	17.9	0	2	7	0	1	6.8
クマゼミ	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	23	19	14	36	100	6	18	13	4	15	100	6	41	32	18	51	100



(2025年調査に参加した人)

伊沢昭司、弦間幸子、星野節子、大澤美恵子、大塚千賀子、本多久男

(順不同、敬称略)

シジュウカラの巣立ち

(2025年6月7日~6月19日)



(6/7)3日目



(6/9)5日目



(6/11)7日目

音を発します。6/9には頭頂も黒くなり肩羽もそれらくなってきました。それにしても成長の速さには驚きます。場所が玄関近くであり、塗装工事中であったことなど、親鳥も大変な所に産んでしまったことなのでしょう。それでも、せっせっせと2~3分おきにやってきま

す。時には、そんなに大きいのは無理でしょうと思う餌も運

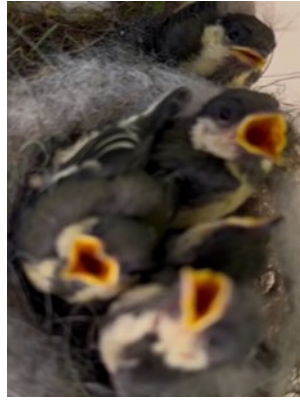
んできます。親鳥は早朝はやって来ません。おそらくこれから始まる重労働に備えて、自分たちも体力を付けているのでしょう。想像ですが...

早朝はシャッターチャンスです。雛たちも寝ているし、まだ目も見えないので、そっとスマホで撮ります。

湘南鷹取の我が家の外壁塗装工事中、孵化したばかりのシジュウカラの雛が見つかりました。7羽確認。チチチと小さな声で鳴いていました。3日目というのは、たぶんという話で不確かです。親鳥は小さな虫をくわえて盛んにやってきます。必ず片方の親が少し離れた上の所で見張っていて、人がいるとジジジと警戒



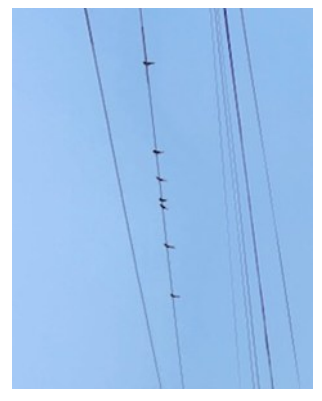
(6/12)8日目



(6/15)11日目



(6/16)12日目



(6/19)15日目

重なっているのか7羽確認できたのは初日だけで 以後は5羽しか確認できません。

6/12だいぶシジュウカラらしくなってきましたが、まだ羽の生えていない箇所があります。

6/15私が寄っていったら親鳥と思ったのか、チチイチッチと一斉に鳴き始めました。可哀想なことをしました。6/16雛たちは、もう私を敵と認識し、身を伏せたりします。巣の中で羽ばたく様子も見せ、巣立ちが近いことを感じました。巣立ちの邪魔はできないので、この日以降の写真はありません。

6/19午後1時過ぎ、親鳥がやって来ないので巣を見たら、もぬけの殻でした！

15日目で巣立ったことになります。工事のお昼休みを見計らって飛び立った模様です。見たかったのに残念です。でも塗装工事の騒音と臭いがする中、親鳥、雛たち、本当に頑張りました。心から拍手です。

30分後、近くの電線に鳥が7羽止まっていたいました。この子たちに違いないと思っています。

(板垣加代子)

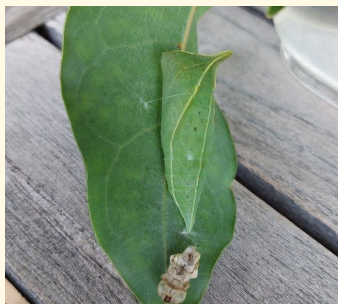
アオスジアゲハの羽化の観察



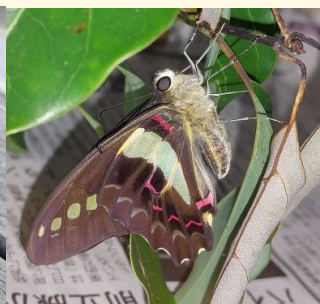
6.27 終齢幼虫



7.1 前蛹



7.2 蛹



7.16羽化

家で育てたアオスジアゲハの記録写真です。7月16日の朝羽化して15時半過ぎに小雨のなか飛び立って行きました。アゲハ類の羽化確率は1~2%とのこと、無事成虫になれてよかったです。

(大塚千賀子)



蛹の抜け殻

横須賀市市民活動サポートセンターの展示

汐入駅にある横須賀市市民活動サポートセンターの活動紹介コーナーで、「夏休み自由研究お役立ち展示」を8月2日(土)から8月15日(金)まで行いました。

鷹取山自然観察会では、蝉の脱け殻調査、蝶類調査、植物相調査など写真と調査結果をポスターで掲載しました。併せて、鷹取山の自然観察ガイドを展示させてもらいました。少しでも自然観察に興味を持ってもらえればありがたいと思います。



巣箱の掛け替え作業の予定

時間: 11月21日(金)午前中

集合場所: 鷹取山公園東屋
10時集合

野鳥の保護と野鳥観察を目的として巣箱掛けを行ってきました。現在約10個の巣箱が掛かっており、その掛け替え作業をします。



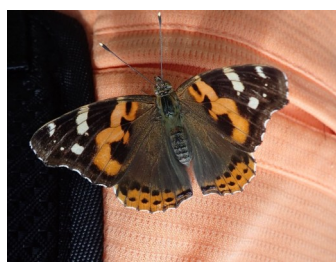
調査中に見つけた生き物



8.15 ナガサキアゲハ-翅表



8.15 ナガサキアゲハ-翅裏



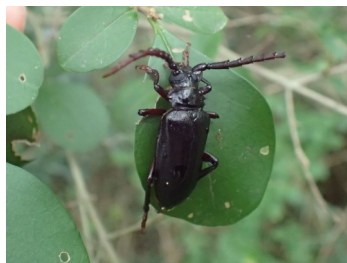
7.18 アカタテハ



7.18 ジャノメチョウ



7.18 ヤマトタムシ



7.11 ノコギリカミキリ



7.11 ヤマユリ



7.11 ナギラン



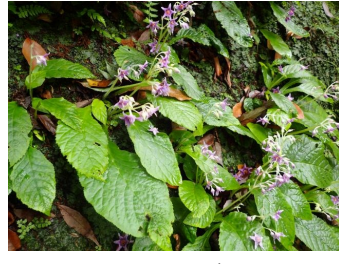
6.28 ハンミョウ



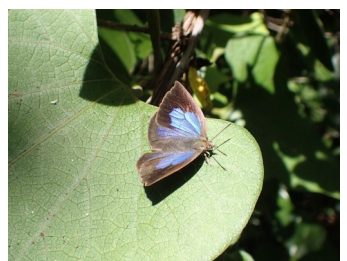
6.28 クマゼミの抜け殻



6.1 ケンポナシ



6.4 ケイワタバコ



7.4 ムラサキシジミ



7.4 コクラン



6.13 ヒメヤブラン



7.23 ヨツスジトラフカミキリ



ナミアゲハ



シロヨメナ



落葉

十月のテーマ
「鷹取山の秋を探してみよう」
石切場の岩に影さす秋の蝶
十一月のテーマ
「野菊の違いを観察しよう」
全山を覆い尽くして白嫁菜
十二月のテーマ
「落ち葉の種類を見分けよう」
この鋸歯は小櫓か櫟落葉かな
こなら くぬぎ

俳句

小島常義さんが自然観察会に参加した折に作った句を紹介しています。



イベント情報

定例自然観察会の予定

9月14日(日)	鷹取山の秋の七草は何でしょう	京急田浦駅集合
10月12日(日)	鷹取山の秋を探してみよう	追浜駅集合
11月9日(日)	野菊の違いを観察しよう	京急田浦駅集合

モニタリング1000里地調査の予定

植物相調査	9月12日(金)	集合場所、時間	蝶類調査	9月5日(金)、19日(金)	集合場所、時間
	10月10日(金)	鷹取山公園東屋		10月3日(金)、17日(金)	
	11月14日(金)	10時集合		11月7日(金)	

鳥類調査	12月5日(金)、 19日(金)	9時30分西友鷹取店 電話 ボックス前集合
------	---------------------	--------------------------

自然観察会の延期は翌週日曜日です。モニタリング1000調査の雨天延期の場合は日曜日、更に水曜日となります。


自然観察会の報告

6月1日(日)	初夏に咲く花を観察しよう	会員7人、非会員4人、計11人
7月	猛暑のため中止	—
8月	猛暑のため中止	—

モニタリング1000里地調査の報告

植物相調査	6月13日(金)	曇26.7℃	参加9人	
	7月11日(金)	曇24.1℃	参加7人	
	8月8日(金)	晴30.4℃	参加7人	

鳥類調査	6月17日(火)	快晴	参加2人	11種53羽	
	6月28日(土)	曇32.0℃	参加3人	12種63羽	

蝶類調査	6月6日(金)	晴27℃	参加7人	13種46頭	
	6月20日(金)	晴31℃	参加6人	17種55頭	
	7月4日(金)	晴30℃	参加8人	21種152頭	
	7月18日(金)	晴31℃	参加7人	22種140頭	
	8月3日(日)	快晴30℃	参加5人	17種89頭	
	8月15日(金)	快晴30℃	参加4人	17種68頭	

当会では不定期ですが、会員有志で階段の整備、植樹場所の手入れ、貴重植物の保護のため保護柵の整備など行っています。主旨賛同される方は、参加ください。

鷹取山自然観察会(ホームページを見て下さい)

HP: 鷹取山自然観察会

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

連絡先: 世話人代表: 本多久男 e-mail: takatori_0721@nifty.com